

2022年10月1日以降に
満期を迎えるお客さまへ

中国・四国・九州版

企業分野火災保険改定のご案内

いつも、当社をご利用いただきまして誠にありがとうございます。
近年の自然災害等の増加を受けて、2022年10月以降保険始期の契約について、商品改定を実施いたします。
本改定により、ご契約（更改）にあたり保険料や補償内容が大きく変更となる場合があります。2021年1月実施の前の改定から間もない改定となり、大変恐れ入りますが、今一度ご契約内容をご確認のうえ、お手続きいただきますようお願い申し上げます。

保険料の改定

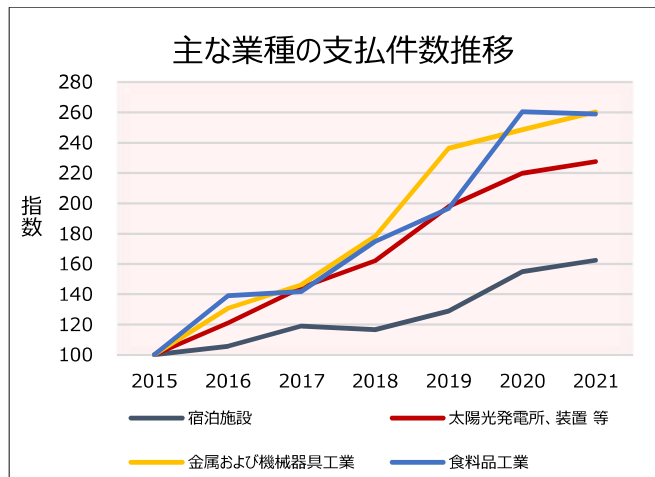
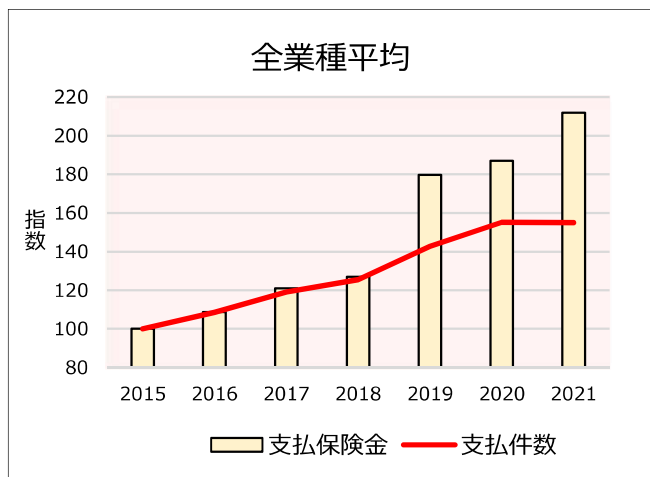
主な保険料の改定項目は次のとおりです。保険料は、おおむね引上げとなります。

火災危険 (火災、落雷、破裂・爆発、 風災・雹災・雪災)	都道府県、構造級別および業種等に応じて料率の見直しを実施いたしました。
水災	物件の所在地に応じて料率の見直しを実施いたしました。
電氣的・機械的事故	料率の引上げはありませんが、一部規定の改定により、料率が変動する場合があります。
その他危険 (破損・汚損等)	業種や物件の所在地に応じて料率の見直しを実施いたしました。
長期係数	保険期間が1年を超える長期契約については、長期係数が引上げとなります。 (保険料が高くなります。)

保険料改定の背景

- 大型台風やゲリラ豪雨等、自然災害の増加に伴い、火災保険の支払保険金は増加傾向にあります。
(当地域の自然災害の傾向については裏面をご確認ください。)
- また、水濡れ、破損・汚損等の事故も増加しており、特に太陽光発電設備や、工場など作業を行う施設、不特定多数のお客さまが訪れる施設（料理飲食店、宿泊施設など）を中心に支払件数および支払保険金が増加傾向にあります。

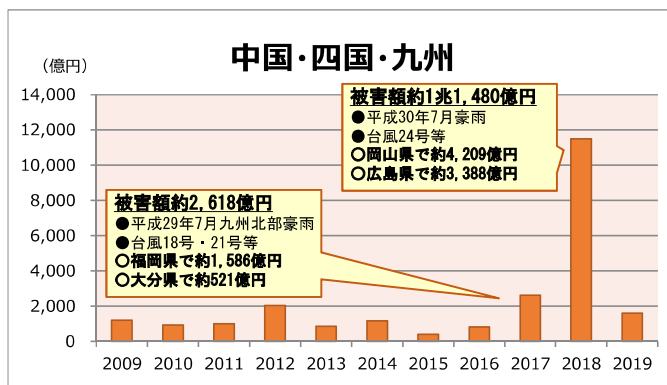
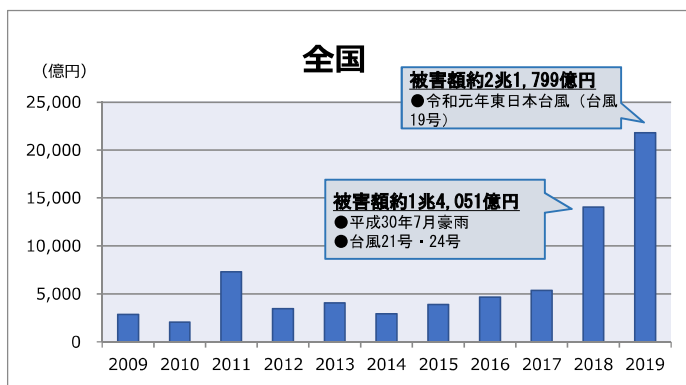
▼破損・汚損等の事故発生状況（2015年度～2021年度）
※2015年度を100とした場合の指数の推移を示しています。



当地域の近年の風水災

全国的にも、風水災の支払い状況は近年増加傾向にあります。特に、2018年および2019年は台風による大規模な水害が2年連続で発生しました。当地域での被害額の大きい事例は、平成30年7月豪雨（2018年）、2度の九州北部豪雨（2012年、2017年）などでした。

▼全国および中国・四国・九州地域での水害発生状況（2009年～2019年）



出典：国土交通省水害統計調査の公表値（2022/5/23アクセス）に基づき作成。水害の対象は洪水、内水、高潮、津波、土石流。主な災害は、気象庁データベース「災害をもたらした気象事例」を参照。

▼中国・四国・九州地域での近年の風水災被害事例

発生年月	災害名	地域	主な被害
2019年9月	台風17号	西日本	死者1名、行方不明者0名、負傷者1名、住宅全壊0棟、半壊10棟、一部損壊851棟、床上浸水97棟、床下浸水147棟など
2018年9月	台風24号	西日本から東日本	死者2名、行方不明者0名、負傷者16名、住宅全壊57棟、半壊317棟、一部損壊4,198棟、床上浸水245棟、床下浸水881棟など
2018年7月	平成30年7月豪雨	西日本	死者253名、行方不明者8名、負傷者131名、住宅全壊6,732棟、半壊11,035棟、一部損壊3,842棟、床上浸水6,160棟、床下浸水18,174棟など
2017年6月	梅雨前線に伴う大雨および台風3号	西日本から東日本	死者42名、行方不明者2名、負傷者29名、住家全壊328棟、半壊1,110棟、一部損壊79棟、床上浸水210棟、床下浸水1,706棟など

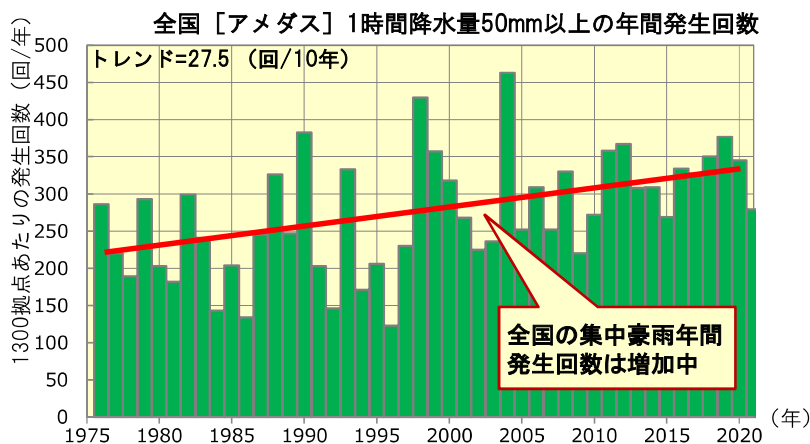
出典：総務省消防庁 地方防災行政の現況 <https://www.fdma.go.jp/publication/bousai/> をもとに作成。

まとめ

中国・四国・九州地域は、前線・台風などの影響により、大雨・暴風になりやすい地域です。土砂災害危険度も全国で最も高く、また沿岸部での高潮にも注意が必要です。

今後の気象現象の推移

気象庁『気候変動監視レポート2021』では、近年の観測により日本の年平均気温の上昇傾向（100年あたり1.28℃）や猛暑日の増加、1時間雨量50mm以上の降雨の発生回数の増加傾向（直近10年間の発生回数は、1976年からの10年間の発生件数の1.4倍に増加）が明らかとなったと指摘しています。温室効果ガス増加による地球温暖化と、数年から数十年単位で繰り返される自然変動が重なっていることが要因の一つです。



出典：気候変動監視レポート2021（2022年3月 気象庁） <https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/monitor/index.html>、気象庁気象庁の観測データ https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html

まとめ

風水災リスクをとりまく環境は脅威を増しており、今後も風水災害の発生増加が見込まれます。火災保険において、将来にわたる安定した補償提供のために保険料水準の見直しを実施いたしました。

※このご案内は、改定の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては、取扱代理店または損保ジャパンまでお問い合わせください。なお、ご契約に際しては、必ず「普通保険約款および特約条項」、「重要事項等説明書」等をご確認ください。



損害保険ジャパン株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
 <連絡先> <https://www.sompo-japan.co.jp/contact/>

SOMPOグループの一員です。

お問い合わせ先

C I U 株式会社クリエイティブ インシュアランスコーポレーション
 TEL 089-934-3030 松山市桑原4丁目13-22